

平成 20 年度

病害虫発生予報第 6 号

平成 20 年 10 月 23 日

三重県病害虫防除所

515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

ホームページ<http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo>

目 次

	ページ
1. 向こう 1 か月の予報と対策	1
2. 作物別の状況	2
3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠	5
4. 予察項目の見方	8
5. 今月のトピックス（チャのカンザワハダニについて）	9
6. 気象のデータ	10
7. おしらせ	12

1. 向こう 1 か月の予報と対策

1) 果樹

カンキツでは、ミカンハダニの発生量は平年並と予想されます。

2) 茶

チャでは、カンザワハダニの発生量はやや少と予想されます。

3) 野菜

トマトでは、疫病の発生量はやや少と予想されます。

イチゴでは、うどんこ病の発生量はやや少、炭疽病の発生量は平年並と予想されます。ハダニ類の発生量はやや多と予想されますので密度の低いうちに防除をしてください。

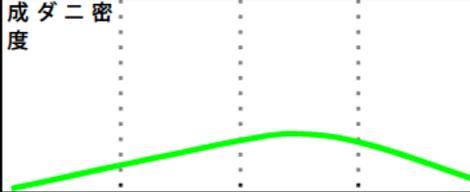
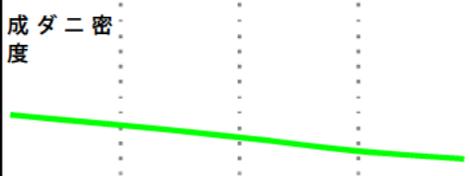
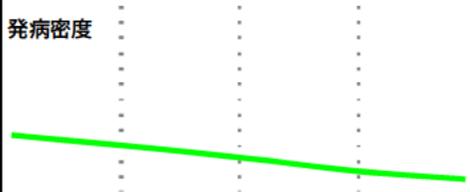
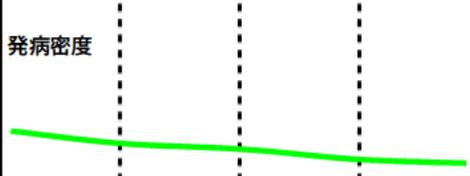
ハクサイでは、白斑病の発生量はやや多と予想されますので注意してください。

キャベツでは、菌核病、黒腐病の発生量は平年並と予想されます。

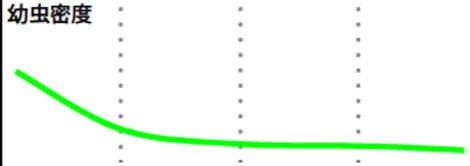
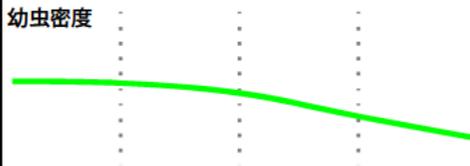
ネギでは、ネギコガの発生量はやや少と予想されます。シロイチモジヨトウの発生量は平年並と予想されます。

野菜共通では、コナガ、ハスモンヨトウの発生量は、平年並と予想されます。

2. 作物別の状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
			発生時期	発生量		10月	11月			
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬	
カンキツ	ミカンハダニ	—	平年並	中	普通	成ダニ密度		1) 現状で1葉当たり雌成虫数が0.5~1.0頭になっていなければ防除の必要はありません。 2) 中晩柑類で袋かけをする品種では、作業にかかる前に必ず発生状況を確認し、必要に応じて防除を行ってください。		
チャ	カンザワハダニ	—	やや少	小	普通	成ダニ密度		1) 発生密度が高くなければ防除の必要はありません。		
トマト	疫病	—	やや少	小	普通	発病密度		1) 初発を認めた場合は、集中的に薬剤散布してください。 2) 窒素肥料を過用すると、茎葉が軟弱になり発生しやすいので、過用は避けてください。 3) 20℃ぐらいの室温で多湿の時に発生が多くなります。病原菌は被害植物とともに土の中に残り、伝染源となるので、被害株・枯死株は圃場外で処分してください。		
イチゴ	うどんこ病	—	やや少	小	普通	発病密度		1) ビニール被覆後、発生が増加します。 2) 予防に重点をおいて防除してください。 3) 発病を認めたときは、集中的に薬剤散布し、十分に防除してください。		
	炭疽病	—	平年並	小	普通	発病密度		1) 感染株が、本圃定植後に発病します。 2) 発病株は周りの土ごと圃場外へ持ち出し、適切に処分してください。		

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						10月	11月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
イチゴ	ハダニ類	—	やや多	小	普通	成ダニ密度 				<ol style="list-style-type: none"> 天敵農薬を使用する場合は、密度の低いうちに導入するよう手配してください。 発生を確認したら、できるだけ早期に防除するようにしてください。 薬剤をかかりやすくするため古葉を整理し、葉裏までしっかりと散布してください。 抵抗性が発達しやすいので、同一薬剤や同一系統薬剤の連用は避けてください。
	ハクサイ	白斑病	—	やや多	中	普通	発病密度 			<ol style="list-style-type: none"> 肥料切れしないように注意してください。 発病初期の薬剤防除を徹底してください。 秋から初冬にかけての雨の多い時期に多発する傾向があります。
キャベツ	菌核病	—	平年並	小	普通	発病密度 				<ol style="list-style-type: none"> 降雨が続くと、発生しやすくなります。降雨後はすみやかに薬剤防除をしてください。 菌核は土中で5年以上生き残ることがあるので、発病株は早期（菌核を形成しないうち）に除去し、畑に菌核を残さないようにしてください。
	黒腐病	—	平年並	小	普通	発病密度 				<ol style="list-style-type: none"> 大雨時に感染することが多いので、大雨後や特に冠水したときはすみやかに薬剤防除してください。 発病株を放置すると翌年の伝染源となるので、圃場外に除去してください。
ネギ	ネギコガ	—	やや少	小	普通	幼虫密度 				<ol style="list-style-type: none"> 幼虫が葉の内部に潜るので、潜入防止のため発生の初期から防除してください。 休眠はなく、1世代30～40日で年間10回前後発生します。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						10月	11月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
ネギ	シロイチモジヨトウ	—	平年並	中	普通					1) 老齢になるに従って薬剤の効果が劣るので、若齢幼虫のうちに防除してください。
	コナガ	—	平年並	中	普通					1) 抵抗性が発達しやすいので、同一薬剤や同一系統薬剤の連用は避けてください。 2) 冬でもゆるやかながら生育を続けて加害します。
	ハスモンヨトウ	—	平年並	中	普通					1) 老齢幼虫に対しては防除効果が劣るので、若齢幼虫のうちに防除を行ってください。

3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
カンキツ	ミカンハダニ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（10月17日発表）によると、気温は低い予想（+）</p> <p>2) 県予察圃（10月中旬）では、100葉当寄生虫数は、無防除区で347頭（平年21.5頭）と多の傾向、防除区で53頭（平年37.6頭）とやや多の傾向（+）</p> <p>3) 巡回調査圃場（10月第2週）では、平均寄生葉率は4.6%（平年4.1%）と平年並、1葉当平均寄生虫数は0.08頭（平年0.09頭）と平年並の傾向（±）</p> <p>4) 一般圃場では、発生量はやや少～やや多（概して平年並）（±）</p> <p>考察： 一般圃場の発生状況を重視して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
チャ	カンザワハダニ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（10月17日発表）によると、気温は低い予想（+）</p> <p>2) 県予察圃（10月上旬）では、寄生葉率は1.0%（平年2.7%）、1葉当寄生虫数は0.01頭（平年0.04頭）とやや少の傾向（+）</p> <p>3) 巡回調査圃場（10月第2週）では、平均寄生葉率は0.2%（平年0.6%）とやや少の傾向、平均寄生虫数は0.00頭（平年0.01頭）と平年並の傾向（±）</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少～平年並（概してやや少）（-）</p> <p>考察： 大きな増減の要因はなく、一般圃場の発生状況を重視して、予想発生量はやや少と考えます。</p>
トマト	疫病	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 巡回調査圃場（10月第2週）では、発病株率は0%（平年0%）と平年並の傾向（±）</p> <p>2) 一般圃場では、発生量は無～やや少（概して少）（-）</p> <p>考察： 大きな増加の要因はないので、予想発生量はやや少と考えます。</p>
イチゴ	うどんこ病	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(10月17日発表)によると、気温は低い予想（+）</p> <p>2) 巡回調査圃場（10月第2週）では、発病株率は0%（4年平均0.24%）とやや少の傾向（-）</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少（-）</p> <p>考察： 一般圃場での発生量は少ですが、気象予想等を考慮して、予想発生量はやや少と考えます。</p>
	炭疽病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（10月17日発表）によると、気温は低い予想（+）</p> <p>2) 巡回調査圃場（10月第2週）では、発病株率0.22%（平年0.28%）と平年並の傾向（±）</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並～多（概して平年並）（±）</p> <p>考察： 気温の低下とともに ハウス内での感染はしにくく大きな増減要因はないので、予想発生量は平年並と考えます</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イチゴ	ハダニ類	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(10月17日発表)によると、気温は低くない予想 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(10月第2週)では、寄生株率は15.3%(4年平均4.0%)と多い傾向 (+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察： 一般圃場での発生量は平年並ですが、気象予想等を考慮して、予想発生量はやや多と考えます。</p>
ハクサイ	白斑病	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 巡回調査圃場(10月第2週)では、発病株率は18.2%(平年8.4%)と多 (+)</p> <p>2) 一般圃場では、発生量は少 (-)</p> <p>考察： 一部圃場で発生量が増えていることを重視し予想発生量はやや多と考えます。</p>
キャベツ	菌核病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(10月17日発表)によると、気温は低くない予想 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(10月第2週)では、発病株率は0%(平年0%)と平年並の傾向 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>4) 昨年の発生量は平年並 (±)</p> <p>考察： 一般圃場等での発生量は平年並であり、大きな増減の要因はないため、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	黒腐病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 巡回調査圃場(10月第2週)では、発病株率は0%(平年2.5%)と平年並の傾向 (±)</p> <p>2) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察： 一般圃場の発生状況を重視して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
ネギ	ネギコガ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃のフェロモントラップによる9月4半旬~10月3半旬の誘殺数は9頭(平年17.6頭)と少 (-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(10月第2週)では、被害葉率は0%(平年1.5%)と平年並の傾向 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察： 一般圃場での発生量は平年並ですが、フェロモントラップ調査の結果を考慮して、予想発生量はやや少と考えます。</p>
	シロイチモジヨトウ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃のフェロモントラップによる9月4半旬~10月3半旬の誘殺数は74頭(平年84.2頭)と平年並(±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(10月第2週)では、被害葉率は0.6%(平年8.6%)と少 (-)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察： 一般圃場での発生量及びフェロモントラップ調査の結果を重視して、予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
野菜 共通	コナガ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(10月17日発表)によると、気温は低くない予想 (+)</p> <p>2) 県予察圃のフェロモントラップによる9月4半旬~10月3半旬の誘殺数は21頭(平年19.9頭)と平年並(±)</p> <p>3) 巡回調査圃場(10月第2週)では、キャベツの寄生株率は2.5%(平年3.5%)とやや少(-)、ハクサイの寄生株率は0.5%(平年0.7%)と平年並の傾向(±)、ダイコンの寄生株率は0.4%(平年5.7%)と少(-)、ナバナの寄生株率は6.8%(平年3.8%)と多(+)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少~平年並(概して平年並)</p> <p>考察: 一般圃場の発生状況を重視して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	ハスモンヨトウ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(10月17日発表)によると、気温は低くない予想 (+)</p> <p>2) 県予察圃のフェロモントラップによる9月4半旬~10月3半旬の誘殺数は2127頭(平年2219.5頭)と平年並(±)</p> <p>3) 巡回調査圃場(10月第2週)では、キャベツの寄生株率は2.3%(平年4.0%)と少(-)、ハクサイの寄生株率は0%(平年0.6%)とやや少の傾向(-)、ダイコンの寄生株率は1.2%(平年2.4%)とやや少(-)、ナバナの寄生株率は0.8%(平年12.1%)と少(-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は並~多(概してやや多)</p> <p>考察: 気温の低下とともに密度も低下するので、予想発生量は平年並と考えます。</p>

4. 予察項目の見方

1) 「作物別の状況」の見方

発生時期（平年比）： 平年の発生月日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数		-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年 発生日	1	2	3	4	5	6	
評価		早	やや早		平年並				やや遅			遅			

発生量（平年比）： 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感ずることがあります。

		平年値 ↓				
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並		やや多	多

発生量（程度）： 発生程度を「小、中、大、甚」の4段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少くなります。「発生量（平年比）」と比べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よ

りやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

要防除圃場率（平年比）： 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の3段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半の圃場では防除暦に沿った通常の防除をしていればよいと予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除などが必要な圃場の割合が相当増加すると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか防除しなくても済むような圃場の割合が相当増加すると予想されます。

低	普通	高
---	----	---

発生消長の一例： 発生予報は向こう1か月の予報ですが、その前後を合わせて40日ほどの病害虫の発生消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

防除の注意事項： 向こう1か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

2) 「発生時期・発生量（平年日）の予察根拠」の見方

（±）：平年並の要因

（+）：発生量増加または発生時期遅延の要因

（-）：発生量減少または発生時期早期化の要因

5. 今月のトピックス 「チャのカンザワハダニについて」

1. カンザワハダニとは

チャは数種のダニ類に加害されますが、最も重要なのはカンザワハダニ（図1）です。赤いためによく目立ち、0.5mm程度まで大きくなるため、ルーペを使えば簡単に見つかります。チャで赤いハダニが群れていたなら、カンザワハダニと考えていいでしょう。



図1 カンザワハダニ

2. 三重県の茶園では

主に3~4月と8~9月に増加し、冬は増殖しません。3月頃気温が上がるとともに加害を始め、年間十数世代の発生があります。葉裏で活動し、被害葉は全体が白っぽくなります（図2）。かすり状になった葉の食害痕が初期発生の目安です。被害が進むと葉の黄化、褐変、変形が起きます。



図2 カンザワハダニの被害

（写真：農業研究所茶業研究室提供）

3. 対策

近年、特に夏期には、ハダニ類の土着天敵であるケナガカブリダニ（図3）を保護活用する防除技術が確立されつつあります。ただし、摘採前の予防や夏期に急増した場合には、薬剤による防除は不可欠です。

すぐに薬剤抵抗性が発達するので、同一系統薬剤の連用は避けなければなりません。



図3 カンザワハダニ（中央）を攻撃するケナガカブリダニ（2頭）

（写真：農業研究所茶業研究室提供）



図4 バンカー植物のチトニア（左下）

（写真：農業研究所茶業研究室提供）

4. これからの防除技術

さらに、周辺の環境を適正に保全管理することで、土着天敵類の待避増殖場所になることがわかっています。その考え方を積極的に取り入れて、チャ園付近で土着天敵類保護増殖のために、バンカー法（図4）を活用する技術が、三重県農業研究所茶業研究室で研究されています。

バンカー法とは

害虫防除を目的として、栽培作物とは異なる植物（バンカー）を圃場付近に植えて天敵を増殖・温存する技術です。バンカーで天敵の餌となる虫が増殖することで天敵が住み着きます。

樹体生育を健全にし、園地の基本管理を徹底することも、樹層を維持し、土着天敵や薬剤を有効に利用するためには大切です。

バンカー植物に関する研究成果は、三重県農業研究所のホームページで紹介されています。

<http://www.mate.pref.mie.jp/marc/SEIKA/H18/12seikaH18.pdf>

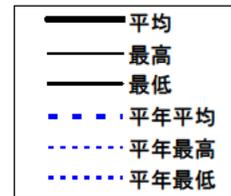
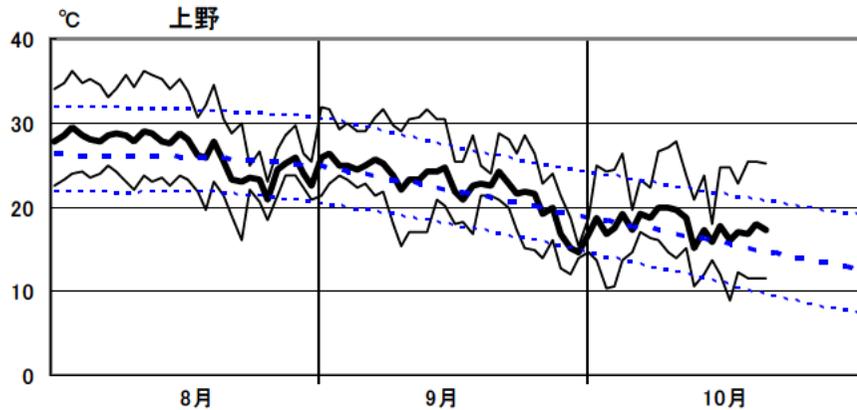
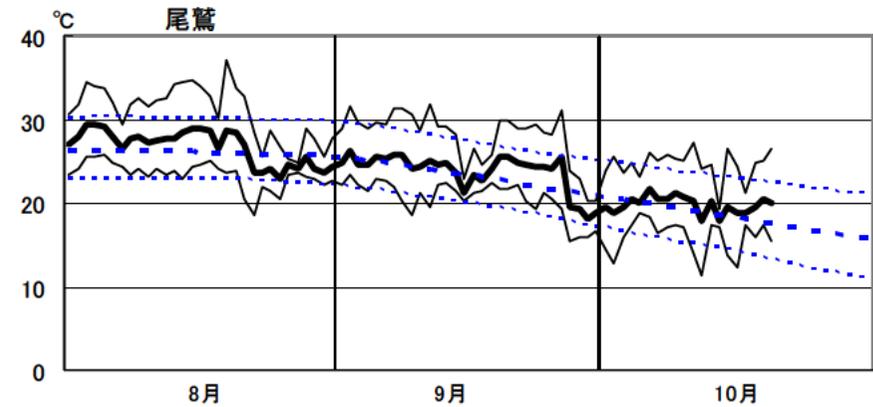
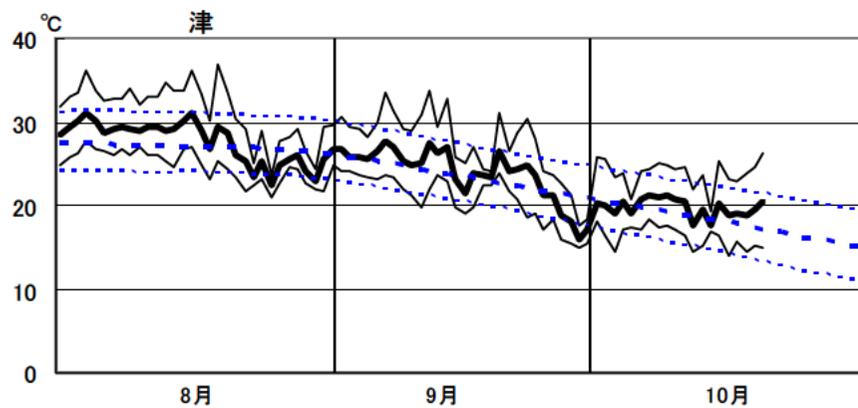
6. 気象のデータ

東海地方 1 か月予報 (平成 20 年 10 月 17 日 名古屋地方気象台発表)

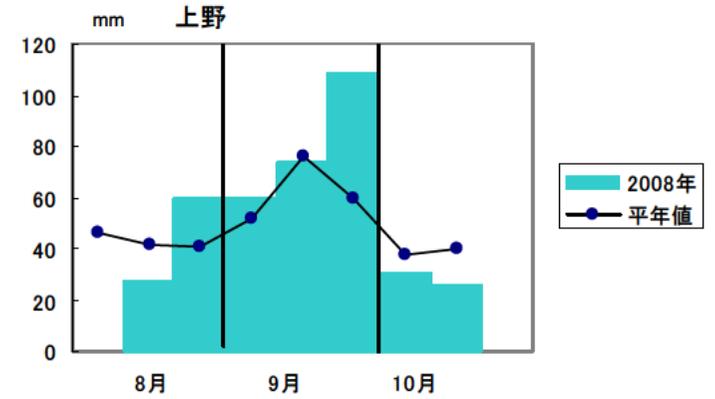
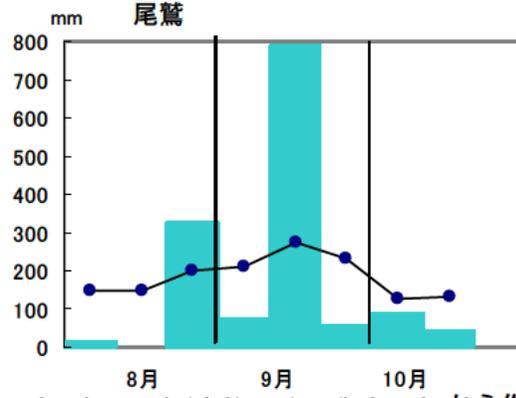
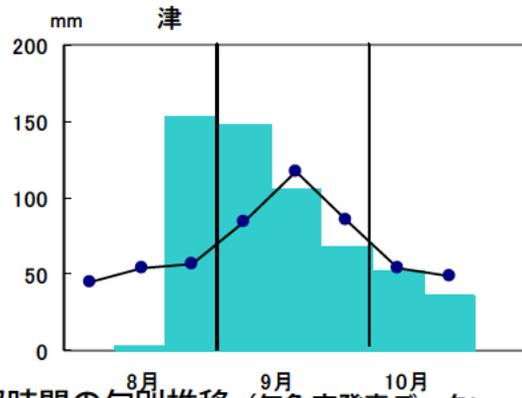
東海地方の向こう 1 か月は、高気圧と低気圧が交互に通過して、数日の周期で変わるでしょう。

1 週目 (10 月 18 日～24 日)	天気は短い周期で変わり、期間の中頃と終わりには気圧の谷の影響で曇りや雨の日がある見込みです。	晴れ日数の平年値 約 5 日
2 週目 (10 月 25 日～31 日)	平年と同様に、天気は数日の周期で変わるでしょう・	同 約 4 日
3～4 週目 (11 月 1 日～14 日)	平年と同様に、天気は数日の周期で変わるでしょう。	同 約 8 日

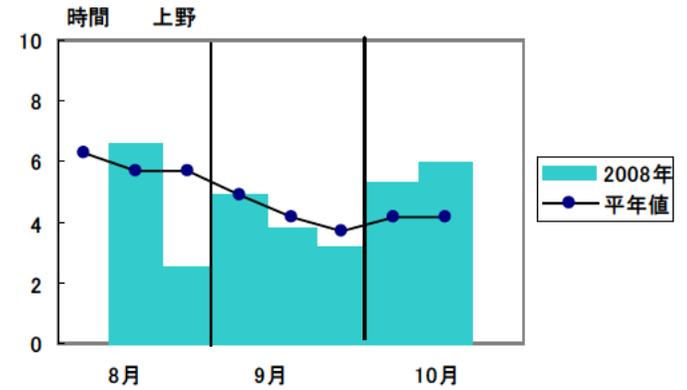
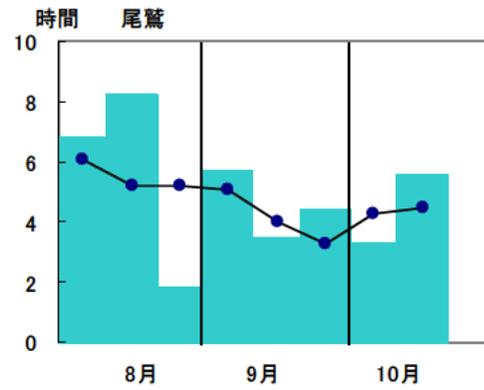
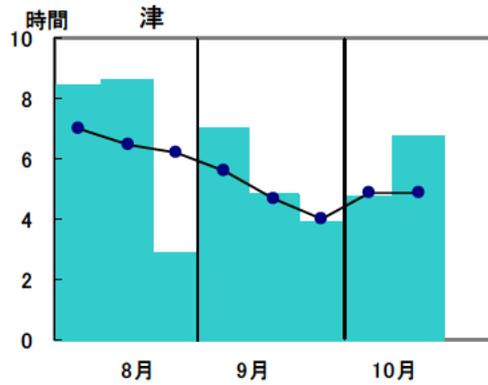
気温の日別推移 (気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> から作成)



降水量の旬別推移 (気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>から作成)



日照時間の旬別推移 (気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>から作成)



7. おしらせ (NEWの印は前回と異なる項目です。)

1) 利用方法

この病害虫発生予報は、ほぼ定期的に発表されます。本年度の予定は次のよう
です。

第1回 4月24日(木) 第2回 5月29日(木)

第3回 6月26日(木) 第4回 7月24日(木)

第5回 8月28日(木) 第6回 10月23日(木)

第7回 3月19日(木)

これらの資料は全部または一部をコピーして再配布しても構いませんが、必
ずページの右下にある「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてくださ
い。

病害虫防除所ホームページには、この予報をはじめとして、不定期に発表され
る警報、注意報、特殊報、技術情報や、各種のグラフ、写真も載っています。下記
のアドレスからお入りください。

<http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/>

このホームページは、原則フリーリンクです。できるだけ多くの農業関係者
の方にホームページをご覧いただきたいと思っていますので、ぜひ、市町、JA
等みなさんのホームページにリンク設定していただくことをお願いいたします。
この場合、事前の承諾申請等は不要です。

なお、事後で結構ですのでメールにてご一報いただきたくお願いいたします。

2) メール配信サービス

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲
載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせしています。このメールの
配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/merumaga.htm>

3) 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時
はラベルをよく読んでください。次のインターネットサイトでは、最新の農薬登
録状況が確認できます。

独立行政法人農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報」

<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vtllm000.html>

4) 三重県病害虫防除の手引き

病害虫防除所ホームページに平成20年1月8日現在の「三重県病害虫防除の
手引き」を掲載しました。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/nouyaku/tebiki/20080108/20080108tebik.html>

5) 本冊子の利用の手引き書

本冊子の利用方法を説明をした「病害虫発生予報利用の手引き」は、下記の
アドレスからお入りください。

http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/yoho/h20yohotebiki_.pdf

6) NEW 植物防疫年報

本県の「植物防疫年報」(平成17～19年度分)を病害虫防除所ホームページに
に置きました。事業内容や調査データが掲載されていますのでご利用ください。